

JICA北海道 5つの事業案内

～さまざまな取り組みで、北海道と世界をつなぎSDGs達成に貢献します。～



01 研修員受入

北海道の「知」と「技」、世界へ。

アフリカ、アジア、中南米など約100ヶ国の国づくりを担う方々に、地域開発や農業、保健医療、教育といった北海道が持つ知識・技術を伝えています。1995年～2019年3月末までに15,941名を受け入れました。



滝川市で農業技術を教わるモザンビーク研修員



年間で約**1,000名**受け入れ



02 ボランティア派遣

道産子の力が、途上国の力に。

「青年海外協力隊」「シニア海外協力隊」などの派遣を行っています。途上国の課題に取り組むために必要な知識、経験を持つ道産子を派遣しています。



ボリビアでごみ分別指導に取り組む青年海外協力隊



累計で約**2,600名**派遣 (2019年3月末現在 ※短期含む)



03 開発教育支援

世界の「いま」を、見る・知る・学ぶ。

出前講座やセンター訪問、研修員の学校訪問などを実施。途上国の現状やボランティアの活動内容などを児童、生徒、学生たちに伝えています。年間3,000名(2018年度)以上がほっかいどう地球ひろばを訪れています。その他、一般向け・教員向けプログラムもあります。



教師海外研修でスリランカの教育について学ぶ



出前講座・センター訪問など**276件**(2018年度)

ほっかいどう地球ひろば



JICA北海道にある国際理解教育・グローバル教育向けの体験型展示施設「ほっかいどう地球ひろば」では、世界の多様性や課題がわかる展示の他、北海道と世界のつながりや北海道で実施されている国際協力を紹介しています。

レストランでは、食やフェアトレード商品を通じて世界とのつながりを体感いただけます。

- 専属ガイド「地球案内人」による展示の説明もあります。
(無料・予約制：tel. 011-866-1515、平日 9:00～17:30)



04 草の根技術協力

海外で生きる、北海道の経験。

北海道の自治体やNGO、大学が行っている途上国への支援活動をサポートしています。途上国における生活改善・生計向上などに貢献しています。



インドネシアで行われた車椅子の修理技術講習会



累計で**48件** (2019年3月現在)



05 中小企業・SDGsビジネス支援

地元企業の海外展開を。

北海道の企業の相談窓口を設置。北海道内の製品・技術を途上国の課題解決に役立て、また普及させるための調査など、海外進出に向けたさまざまなサポートを行っています。



ベトナムの世界遺産で導入されたバイオトイレ



累計で**30件** (2019年3月現在)



植林体験を終えた研修員とコース関係者の皆さま

地域住民主体の森林管理・保全を目指し 世界中の森林を守る

研修員受入事業

課題別研修／地域住民の参加による持続的な森林管理

世界中の各地域で森林を守るためには、住民参加による自主的な活動が不可欠です。JICA北海道(帯広)はそのための第一歩として、森林の保全活動を指導できる人材を育成すべく、主に開発途上国の行政職員を対象とした研修を行ってきました。この研修では、様々なニーズに対応できるよう、苗木の生産技術から森林の管理、さらには木材を利用したバイオマスエネルギーの利用まで、幅広いカリキュラムを実施しています。

【実施団体】一般社団法人 海外林業コンサルタント協会



(上) 帯広の森での間伐体験



(下) 帯広の森での植林体験



知床ルシャ川のダム改良現場視察

気候変動に対するリスクを減らす 生態系を考えた河川環境の取り組みを

研修員受入事業 課題別研修／気候変動に対する順応的流域管理(適応策)「災害リスク削減と生態系保全」

気候変動による洪水リスクや生態系劣化などが地球規模で起こっています。予想外の洪水災害に備えるため、JICA北海道(帯広)ではその適応策の必要性について研修を行っています。構造物だけに頼らず森林の多面的な機能を活用し、生態系バランスにも考慮した研修内容を組み込んでいます。

【実施団体】アークコーポレーション株式会社(帯広市)



(上) 知床ルシャ川のダム改良現場視察



(下) 岩尾別川流域河群林再生、ダム改良プロジェクト現場視察



研修員が副産物を活用したサイレージ作りについて実習を行っている様子

畑作や食品加工で出た茎や皮を有効活用する知恵を学ぶ

研修員受入事業

課題別研修／地域資源に基づいた乳肉生産のための牛の飼養管理

多くの途上国において牛は貴重な収入・栄養源ですが、不十分な飼料、不適切な飼養管理などが原因となり、乳肉生産は質・量ともに低くなっています。

JICA北海道(帯広)では、畑作や食品加工場で出される茎や皮といった副産物など有効活用されていない資源を、効果的に家畜管理に役立てる研修を実施しています。

【実施団体】十勝インターナショナル協会



研修員が副産物を活用したサイレージ作りについて実習を行っている様子



帯広柏葉高校にて研修員が理科の授業を実施

実験・観察を通じた 理科教育を子どもたちへ

研修員受入事業

課題別研修／小学校理科教育の質的向上～「教えと学び」の現場教育～

開発途上国では教科書を読み、暗記させる授業の形態が主流です。しかし特に理科教育は、実験や観察、考察など、生徒中心の授業を計画的に行う必要があります。JICA北海道(帯広)では、理科の単元を見通した学習指導案の作成や簡易実験の導入などの教授法を学ぶ研修を行っています。

【実施団体】十勝インターナショナル協会



理科教育センターでの研修



新富良野大橋上部工事現場を視察する研修員

積雪寒冷地に適した 橋梁維持管理のノウハウを途上国へ

研修員受入事業

国別研修／橋梁総合

橋は道路の一部であり、人々の生活や経済活動に必要不可欠なインフラです。橋は安全で円滑な交通機能を確保し、河川や鉄道等によって分断された地域を相互に結ぶ重要な公共施設であることから、長期にわたり安全性が求められています。しかしながら、橋梁技術者が高度な橋梁技術を途上国内で習得することは困難な状況です。北海道と対象国の中央アジア、コーカサス諸国は、積雪寒冷地という類似の地域特性を持ち、寒冷地における橋梁維持管理のノウハウを日本の技術者から途上国の技術者に移転しています。

【実施団体】北海道開発局、一般社団法人 北海道開発技術センター



橋梁施工方法の説明を受ける研修員



札幌市中央卸売市場を視察し、農作物の公正な価格形成について学ぶ研修員

新たな農業経営を目指す中央アジア諸国 北海道の経験を学ぶ

研修員受入事業

課題別研修／中央アジア地域農民組織強化

1991年の旧ソ連解体により独立した中央アジア諸国では、土地所有制度の改革や集団経営農場の解体が進み、多くの小自営農家が出現しました。彼らの多くは農業経営や基本的な農業技術に関する知識が限定的です。余市町の北海道指導農業士（担い手の育成に強い熱意と指導性があり、地域のリーダーとしての活躍が期待されている農業者）や札幌市中央卸売市場等を訪問し、日本における農業経営の実際を学びました。

【実施団体】北海道大学、公益財団法人 北海道農業公社



(上) 余市町の指導農業士より農業経営を学ぶ研修員



(下) 札幌市中央卸売市場を視察し、農作物の公正な価格形成について学ぶ研修員



真剣な眼差しで北海道の道路維持技術を講師から学ぶ研修員

増大する道路メンテナンスの需要 道路管理技術者を育成

研修員受入事業

課題別研修／道路維持管理

急速な経済発展に伴い、開発途上国では増大する自動車交通需要に対応するための道路整備が急務となっています。これらの道路インフラは損傷や老朽化により維持管理に対する重要性が増しています。開発途上国では道路の維持管理が後回しにされる状況にある中、途上国の道路管理技術者が札幌市の道路及び橋梁点検から維持修繕、補修保全に至るライフサイクルコスト削減の方法を学んでいます。

【実施団体】北海道開発局、札幌市建設局、
一般社団法人 北海道開発技術センター



(上) アスファルト合材を使用した道路パッチング補修方法を学ぶ中央アジアの道路技術者



(下) 橋梁の目視点検と記録方法を学ぶ中央アジアの道路技術者



研修員の強い希望により、北海道胆振東部地震による被害を受けた道路を視察

地震後の早急なインフラ復旧 災害対応計画の重要性を研修員が実感

研修員受入事業

課題別研修／道路行政インフラマネジメントシステム

この研修では、北海道のインフラ開発の歴史と経験を学んでいます。研修員来日中の2018年9月、北海道胆振東部地震が発生。参加した研修員の大半が経験したことがない規模の地震でした。被災した地域のインフラの復旧も1週間以内に仮設工事が行われ通行可能になったことに対し、北海道の道路行政における事前の災害対応計画がしっかりしていることに感銘を受け、備えあれば憂いなしを自国で実践する重要性を深く理解しました。

【実施団体】北海道、公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター (HIECC) 他



(上) 工場で再生アスファルト材の説明を受ける研修員(札幌市)



(下) アスファルトに使用される骨材の粒度と強度の関係について説明を受ける研修員(札幌市)



札幌近郊の農家を視察する研修員

北海道の農業で アフリカの食糧増産に貢献

研修員受入事業

課題別研修／農民参加による農業農村開発

アフリカの農村は、食糧自給率が極めて低く、栄養の問題も深刻な状況です。小農を中心とした農業生産性の向上やバリューチェーン全体の整備、市場志向の農業生産のアプローチ、民間セクターとの連携等、幅広い対応が必要になっています。札幌市近郊の農家を訪問し、限られた土地で得られた農作物に付加価値をつけて販売する事例を学びました。



農業用水に関する施設を視察する研修員

【実施団体】公益財団法人 北海道農業公社、北海道大学、
北海学園大学



実際の水田で水の管理方法を学ぶ研修員

北海道の土地改良の経験やノウハウから灌漑施設の保守や維持を学ぶ

研修員受入事業

課題別研修／農民主体型用水管理

多くのアジア・アフリカ諸国では、灌漑施設の保守や維持が適切に行われず、適切公平な水配分ができていません。北海道の土地改良区は、単なる水利組合としての機能だけでなく、農家の主体的参加を促して地域を活性化させる役割も担っています。実際の水田圃場を視察することで、北海道の土地改良区の経験やノウハウをアジア・アフリカ諸国の研修員に伝えています。



地域イベント・田んぼアートに参加する研修員

【実施団体】 篠津中央土地改良区、大雪土地改良区、てしおがわ土地改良区、当別土地改良区、富良野土地改良区、北海土地改良区



枝幸町保健センターにて妊婦体験をする研修員

アフリカ諸国の保健医療サービスの改善に向けて

研修員受入事業

課題別研修／アフリカ地域 地域保健担当官のための保健行政

アフリカ諸国の多くは、保健医療従事者や予算の不足により住民が求める保健医療サービスを提供できていません。地域住民のニーズに合った持続可能な地域保健システムを提供するには、適切な保健行政計画を作って実施しなければなりません。この研修は、地域の保健医療行政担当官が、地域の保健計画を策定し、行政サービスの向上に向けた具体的で実現可能な改善ができるよう支援しています。



特別養護老人ホーム「美瑛慈光園」にて、高齢者と交流

【実施団体】 旭川医科大学



知床自然センターにて、世界自然遺産・知床国立公園の自然環境保全と観光の両立に関して説明を受ける研修員

北海道の知見から学ぶ 地域観光開発

研修員受入事業

課題別研修／観光開発による地域活性化—北海道の地域ブランド化とマーケティング

開発途上国の観光開発は、地域住民の雇用創出や収入向上の経済効果が期待できる一方、外国資本のリゾート開発等により、地域の伝統や自然環境が劣化してしまうケースも見られます。この研修では、冬の北海道を舞台に、「厄介物」の雪や流氷を観光資源として活用したプロセスを紹介し、地域住民が主体となって取り組む持続可能な地域観光開発が途上国で進められることを目指します。

【実施団体】公益財団法人 はまなす財団



流氷を見たことも聞いたこともない研修員が、ドライスーツを着ていざ海水の中へ。流氷の観光資源化について学ぶ



富良野川のダム群を視察。北海道旭川開発管理部富良野出張所の職員より説明を受ける

火山災害の被害を減らして 火山とともに生きる

研修員受入事業 課題別研修／中南米地域 火山防災能力強化

2000年の有珠山噴火で事前避難、被災者ゼロを成し遂げた北海道。そこにいたるまでの様々な火山災害の経験や復興の歴史、そして現在の我々の取組を、同じく火山国である中南米各国の研修員と共有し、火山の恩恵を受け、火山とともに生きる方法について考え学びます。



十勝岳火山砂防情報センターにて、十勝岳の観測体制や噴火への備えについて説明を受ける

【実施団体】 特定非営利活動法人 環境防災総合政策研究機構



北海道大学構内を歩き、北大リサーチ&ビジネスパーク構想の取組みを視察する

企業、大学・研究機関が協力 クラスター・アプローチで地域産業振興を

研修員受入事業

課題別研修／クラスター・アプローチによる産業振興

北海道では、様々な産業の分野で企業・団体が協力し、結びつきながら、地域振興に貢献してきました。その経験を途上国の発展に生かしてもらうよう、「クラスター・アプローチによる地域産業振興」という研修を実施しています。クラスターはぶどうの房の意味で、地域産業を一房のぶどうに見立て、粒を大きくし、粒の数を増やすことを考える手法です。この研修では、農機メーカーを中心とした農業クラスターについて学んでいます。



東洋農機株式会社にて、農業機械の生産ラインを見学
農機具メーカーを中心に、部品製造メーカー、
農家、農協との関係性を学ぶ

【実施団体】公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）、北海道開発局 他



児童主体の授業づくりを目指す—教師役、児童役に分かれて算数の模擬授業を実践する研修員

楽しい算数学習で 児童の学びにつなげる

研修員受入事業

課題別研修／児童の学び改善のための初等算数授業法

開発途上国における理数科教育分野では、教育の量のみならず質への関心が高まっています。参加国の研修員は、日本の初等算数科教育に関する知識を学び、小学校での現場実習も行います。綿密な教材開発と授業検討から、児童の学習意欲を促す算数科授業の構築、それを学習指導案として表現できる能力を身につけ、参加国における初等算数科教育の向上を目指します。



授業改善に向けて協議を重ねる

【実施団体】北海道教育大学



GISの空間解析とデータベース構築に関する技術研修

途上国の森林を適切に保全 森林資源のモニタリング技術を磨く

研修員受入事業

課題別研修／森林リモートセンシング

森林は莫大な炭素の貯蔵庫であり、その破壊によって大量の温室効果ガスが放出されます。「REDD+(レッドプラス)」は、森林減少や劣化を食い止めるために、森林を多く有する途上国にはその保全を、先進国には支援を求め、途上国の森林を保全する取り組みに対して、国際社会が経済的なインセンティブを提供しようという仕組みです。REDD+の推進には、途上国における森林資源のモニタリング能力の向上が欠かせません。この研修では、リモートセンシング技術を用いて参加国の森林資源を把握・管理するためのスキルと知識を学びます。

【実施団体】酪農学園大学



森林を対象としたGIS、GPSの活用方法を学ぶフィールド研修



日農機製工株式会社にて、農業機械の生産ラインを見学。5SやKAIZENの実践事例を学ぶ

北海道の企業・団体の経験を学ぶ 次世代のリーダー

研修員受入事業 青年研修／中央アジア・コーカサス混成／地域における中小企業振興コース

北海道では、様々な産業の分野で企業・団体が協力し、結びつきながら、地域振興に貢献してきました。その経験を中央アジア・コーカサス地域の発展に生かしてもらおうよう、農業・農産品加工による地域振興を学びます。農家のニーズに合わせた製品開発、5SやKAIZENによる生産コスト抑制の手法は研修員に好評で、帰国後に実践したいととても意欲的です。



農業記念館にて、地域農業と農協の歴史を学ぶ

【実施団体】公益財団法人 北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）



暑寒の森道づくり研究所にて病害虫対策に有用な木酢液づくりを学ぶ

北海道からモザンビークへ 食品加工や病害虫対策を伝授

研修員受入事業

モザンビーク国別研修／農業技術促進を通じた農村開発セミナー

モザンビーク農村開発に役立てるため、北海道空知地域における農業技術、農産品加工・販売に関する知見を学びます。モザンビークでの安定的な食糧確保のため、食品加工や病害虫対策が急務となっています。木酢液はヨトウムシ等の食害に対して効果的な予防手段であることから、研修員の目は真剣です。



暑寒の森道づくり研究所にて農道管理手法の一環としてロープの締め方を学ぶ

【実施団体】一般社団法人 滝川国際交流協会



積水化学北海道株式会社で水道管接合を経験する研修員（札幌市）

「水源」から「蛇口」まで 日本の上水道技術を学ぶ

研修員受入事業 課題別研修／上水道施設技術総合

人間が健康で文化的な生活を営むには、良好な水環境を保全するとともに、適切かつ効率的に水を利用し、健全な水循環を構築・維持していく必要があります。本研修では、安全かつ安定した水道水の供給に必要な上水道に係る「水源」から「蛇口」までの総合的な知見を得て、帰国後にそれぞれの国における課題解決へ向けた取り組みに活かします。

【実施団体】札幌市水道局、公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）



（上）地下に埋設されている水道管からの漏水探知技術を学ぶ。限られた水資源を守るため、漏水を減らすことは課題のひとつ
（下）白川浄水場で施設運営の説明を受ける研修員（札幌市）



豊かな自然資源を活かした地域振興について学ぶーコウノトリ保全に関する環境体験教育の現場視察(豊岡市)

自然資源の適切な管理で 地域振興を目指す

研修員受入事業

課題別研修／森林等自然資源の持続可能な利用とバリューチェーン強化

世界の自然資源は、いまだ安定的な管理がなされていないものも多く、持続可能な自然・資源管理を推進するための政策、法的制度の枠組み、インセンティブや技術がまだない国もあります。北海道は日本でも特出した地域ブランド力があり、認証制度を活用した付加価値向上を始め、企業や市町村等で様々な取り組みがあります。この研修では、認証制度や地域のブランド化などをうまく利用した自然資源の活用による地域振興について中核人材の能力強化を図ります。



森林施業について学ぶ現場実習

【実施団体】酪農学園大学



よさこいダンスや和太鼓を通じた地域の方々と研修員の交流

交流イベントを通じて 日本文化を体験

研修 附 帯 事 業 交流イベント、日本文化紹介

JICA北海道では、日本の経験や技術を学ぶため来日した開発途上国の研修員のために、日本の文化にふれ親しんでもらうプログラムを提供しています。茶道や華道、和太鼓、よさこいを始めとする文化交流イベントは、研修員が市民のみなさまと交流する貴重な機会でもあります。



茶道体験を通して、日本文化に触れる札幌在住の外国籍市民・留学生・JICA北海道研修員

4 質の高い教育を
みんなに



10 人や国の不平等
をなくそう



16 平和と公正を
すべての人に



青年海外
協力隊
(札幌市出身)



ヨルダン



ヨルダン難民キャンプにて活動する青年海外協力隊員

戦争をのがれシリアからヨルダンへ 傷ついた子どもたちのサポートを

ボランティア派遣事業 青年海外協力隊 鈴木 雄太さん (ヨルダン派遣、職種：青少年活動、札幌市出身)

ヨルダン北東部にあるシリア難民キャンプでは、長期的に閉鎖的な環境にいる難民がストレスを抱えていることが課題となっています。とくに戦争に巻き込まれた子どもたちは、心に傷を負っています。そこで札幌市出身の青年海外協力隊が、子どもたちに図画工作やスポーツ、音楽などで集団生活での自立や心のサポートに取り組みました。



難民キャンプで、子ども達と

【配属先】ヨルダン (セーブ・ザ・チルドレン・インターナショナル)

【派遣期間】2013年～2014年



青年海外協力隊
(旭川市出身)



パプア
ニューギニア



現地のミュージシャンとマラリアの予防に取り組む青年海外協力隊員

パプアニューギニアのマラリア予防に 現地のミュージシャンと音楽でPR

ボランティア派遣事業 青年海外協力隊 高野 悠己さん (パプアニューギニア派遣、職種：エイズ・感染症対策、旭川市出身)

パプアニューギニアでは毎年マラリアによって多くの人々が亡くなっています。そこで、現地のミュージシャンとマラリア予防ソングを作り、感染症予防のための啓発活動を行ったのが旭川市出身の青年海外協力隊。地域住民にマラリアは命を奪う病気であることを知ってもらい、感染症知識の向上を目指しました。



現地の子どもたちも興味津々です

【配属先】パプアニューギニア (ココボ保健局)

【派遣期間】2016年～2018年



青年海外
協力隊
(札幌市出身)



ラオス



青年海外協力隊員とルアンパバン県内の行政機関で働く仲間たち

ラオスの非効率的な業務を見直し 公共投資事業の運営管理をサポート

ボランティア派遣事業 青年海外協力隊 渡部 美紀さん (ラオス派遣、職種：行政サービス、札幌市出身)

ラオスでは、公共投資事業において適切な予算編成や財政管理と業務の効率化が、社会経済開発上の課題となっています。ラオスの行政機関に配属された札幌市出身の青年海外協力隊が、公共投資事業の運営管理に関する研修会や予算管理方法の改善に取り組みました。



(左) 公共投資事業に関する研修会の準備をしている様子



(下) 日本の公共事業の運営管理手法の勉強会の様子



【配属先】ラオス (ルアンパバン県ルアンパバン郡計画投資局)

【派遣期間】2017年～2019年

12 つくる責任
つかう責任



13 気候変動に
具体的な対策を



14 海の豊かさを
守ろう



15 陸の豊かさも
守ろう



青年海外
協力隊
(帯広市出身)



ペルー



植物について環境教育を行っている様子

アマゾンの希少動物を守るため 子どもたちに環境教育を

ボランティア派遣事業 青年海外協力隊 能登 淳子さん (ペルー派遣、職種：環境教育、帯広市出身)

ペルーのアマゾン地域では、マナティやカメ等の密猟や違法取引などにより危機に瀕する希少動物の保護が課題となっています。自然環境や生態系保護の大切さを認識してもらうため、帯広市出身の青年海外協力隊が地域の子どもや住民に対してごみ問題や野生動物・森林の大切さをテーマにした環境教育に取り組みました。



アマゾンの魚をテーマにしたワークショップの様子

【配属先】ペルー（アマゾン動物救護センター）

【派遣期間】2015年～2017年



青年海外
協力隊
(札幌市出身)



パラグアイ



住民に聞き取りをする様子

パラグアイ、栄養問題を抱える住民に 栄養士から栄養・食育のアドバイスを

ボランティア派遣事業 青年海外協力隊 川村 由香さん (パラグアイ派遣、職種：栄養士、札幌市出身)

パラグアイでは糖尿病や高血圧などの生活習慣病、妊婦の栄養改善が課題となっています。札幌市出身の青年海外協力隊が栄養・食事改善活動について取り組み、学校では食習慣の重要性を伝える食育活動も行いました。

【配属先】パラグアイ (第5行政地区カアグアス県衛生局)

【派遣期間】2016年～2018年



学校での食育活動の様子



青年海外
協力隊
(北広島市出身)



エチオピア



ボランティアの仲間たちと手洗いソングの普及をする様子

エチオピアの園児たちに 手洗いソングで楽しく教育

ボランティア派遣事業 青年海外協力隊 川村 幹さん (エチオピア派遣、職種：幼児教育、北広島市出身)

エチオピアでは、幼稚園は小学校入学までの準備期間としての意味合いが強く、「遊びを通した学び教育」の実践が課題となっています。北広島市出身の青年海外協力隊が現地に派遣され、紙遊びなどの日本文化を通して園児が楽しんで学べる環境づくりに取り組みました。また、手洗いソングを作成し手洗いの重要性を教員や子どもたちに広めました。



手洗いをするこどもたち

【配属先】エチオピア (アツェリブネディングル幼稚園)

【派遣期間】2016年～2018年



青年海外
協力隊
(札幌市出身)



パラグアイ



保健センター内での乳幼児健診

パラグアイ、看護師による 予防医療や保健意識の向上を目指して

ボランティア派遣事業 青年海外協力隊 岡部 日香莉さん (パラグアイ派遣、職種：看護師、札幌市出身)

パラグアイでは、地域で予防と医療を包括的に行う活動の強化に取り組んでいます。住民の衛生や栄養に関する知識や家族計画、妊娠や育児についての啓発活動が課題となっています。札幌市出身の青年海外協力隊が学校や地域を巡回し手洗い指導や診察の介助を通して予防医療や保健意識の向上に取り組んでいます。



小学校での手洗い指導

【配属先】パラグアイ（カラジャオ保健センター）

【派遣期間】2018年～2020年



生徒たちと食事

ガーナで理科教育 現地教員不足や指導法の改善をサポート

ボランティア派遣事業 青年海外協力隊 関 雄慈さん (ガーナ派遣、職種：理科教育、札幌市出身)

ガーナでは、理数科教師の不足が深刻な問題となっています。特に実験などの実技の指導力が不足しています。札幌市出身の青年海外協力隊が物理や生物の指導を中心とした理科教育の改善に取り組みました。



教室の様子

【配属先】ガーナ (アンコ高等学校)

【派遣期間】2016年～2018年



地方病院で日本での医療安全やリハビリについて医療セミナーをした様子

現地の看護師に 実践的な日本式看護を指導

ボランティア派遣事業 青年海外協力隊 中村 美紀子さん (モンゴル派遣、職種：看護師、森町出身)

モンゴルでは、日本の無償資金協力「日本モンゴル教育病院建設計画」により教育病院の建設が予定されており日本式の業務の進め方、看護ケア、患者への接遇など看護師の能力向上が求められています。そこで森町出身の青年海外協力隊が、看護師を対象に勉強会や実践的な指導を行い、日本式看護の導入に取り組みました。



(左) 安全な点滴チューブの固定の仕方をボランティアが模範している様子



(下) 手指消毒剤がきちんと手に刷り込まれているか確認している様子

【配属先】モンゴル (ウランバートル国立医科大学付属病院)

【派遣期間】2016年～2018年



青年海外
協力隊
(旭川市出身)



ザンビア



きのこ栽培のワークショップの様子

キノコ栽培や稲作で ザンビアの農家の暮らしを改善

ボランティア派遣事業 青年海外協力隊 古茂田 紫乃さん (ザンビア派遣、職種：コミュニティ開発、旭川市出身)

ザンビア東部では、キノコやコメを好んで食べる習慣があるにも関わらず、栽培方法を知らない農家が多い状況でした。そこで旭川市出身の青年海外協力隊が農家の収入向上や栄養改善を目標に、地域の農民にキノコと稲の栽培技術の普及に取り組みました。



稲作の普及活動の様子

【配属先】ザンビア (ルンダジ郡農業事務所)

【派遣期間】2016年～2018年



ホームステイ先の村の子どもたちと習字を使って交流

海外研修の経験を活かし 学校で国際理解教育の授業を

開発教育支援事業 教師海外研修

教師海外研修は、国際理解教育に関心のある教職員の方々を対象に開発途上国で約10日間の研修を行い、その経験をもとに各学校で国際理解教育の授業を実践するプログラムです。2018年1月には道内の先生12名がマレーシアを訪問しました。現地の小学校や大学、マングローブ林などを訪問するだけでなく、青年海外協力隊がコミュニティ開発の活動を行う村で1泊2日のホームステイも体験しました。現地研修を終えた先生たちは、日本の生徒にとって世界が身近となる教材、生徒がより主体的に学べる授業案を考え、授業実践をかさねていきます。

【参加者】北海道内教職員



(上) マングローブ林で植林活動にも挑戦！



(下) サバ大学の方々と一緒に記念撮影

4 質の高い教育を
みんなに



10 人や国の不平等
をなくそう



17 パートナーシップで
目標を達成しよう





研修員と生徒との交流の様子

約100ヶ国から研修員が学校訪問 「国際協力」への礎を築く

開発教育支援事業 研修員学校訪問

JICA北海道では、アフリカ、アジア、中南米など約100ヶ国から研修員を受け入れています。研修員学校訪問プログラムは、開発教育・国際理解教育支援事業の一環として、JICA北海道で受け入れている研修員が学校現場を訪問し、児童・生徒との交流の場を提供するプログラムです。児童・生徒の開発途上国や異文化理解に関する興味・関心を引き出し、「国際理解」から「国際協力」への礎を築くことを目的としています。「総合的な学習に活用したい」と毎年学校からのお問い合わせが多い人気のプログラムです。

【受入団体】北海道内学校

【実施期間】6月上旬～2月上旬



研修員と生徒との交流の様子

4 質の高い教育をみんなに



10 人や国の不平等をなくそう



17 パートナーシップで目標を達成しよう



小学生～
高校生



青年海外
協力隊、
NGO



高校生国際協力体験プログラムの様子

小学生から高校生まで 国際協力を体験

開発教育支援事業 国際協力体験プログラム

JICA北海道では、若い世代に日本と世界のつながりや、国際協力の実態を体感してもらう機会として、小学生から高校生を対象に「国際協力体験プログラム」を企画しています。プログラムでは、北海道内様々な学校から集まった児童・生徒たちが、ワークショップなどのプログラムを通して一緒に考え、意見を交流し、世界の様々な課題をジブンゴトとしてとらえることを、大きな目的としています。近年では、国際協力×SDGsをテーマに、「think globally, act locally(グローバルに考え、ローカルに活動する)」を実践できる児童・生徒の育成に関わっています。

【参加者】北海道内小学生～高校生

【実施時期】8月上旬、12月中旬



高校生国際協力体験プログラム・小学生国際協力体験プログラムの様子



附属釧路中学校教員研修にて、インドでの現地調査をもとにD-netが開発した教材「Let's meet friends in India～プロジェクトを作ろう～」の模擬授業を体験する教員

現職教員のネットワークと連携 子どもたちにグローバルな視野を

開発教育支援事業 NGO提案型プログラム

北海道開発教育ネットワーク(D-net)は現職教員が国際理解教育/開発教育を推進するNGOで、持続可能な開発のための教育(ESD)やSDGsの普及・推進活動も行っています。

JICA北海道ではD-netと連携して、開発途上国のフィールド調査で取材してきたことを教材化しています。3年間かけて教材を開発し、道内、ひいては全国に国際理解教育を推進する活動を行っていきます。

【実施団体】北海道開発教育ネットワーク(D-net)

【実施期間】2018年～2021年



(上) SDGsゴール1「貧困」をターゲットにしたインドでの現地調査



(下) 附属釧路中学校教員研修の様子



映画終了後のトークイベントでは、難民支援(難民キャンプでの子供支援や女性達の手工芸品の販売等)に関わるパネリストを招き、「私たちに出来る事はなにか」を参加者みんなで考えました

世界難民の日にあわせ 映画やトークショーで難民について考える

広報・イベント

難民を知る

世界難民の日に合わせて、国連UNHCR協会との共催で実施するイベント。世界各国の難民問題をテーマとした映画の上映と、それに関わるトークをセットとしたイベントであり、日本人にとって普段意識しづらい「難民」というテーマを、身近な問題としてとらえることを目的に実施しています。

2018年は、シリア難民の青年が主人公の映画「希望のかなた」を上映し、中東(シリア・ヨルダン)支援に関わるパネリストを招いたトークイベントやフェアトレード商品を通じた現地支援の紹介をおこないました。

【主催】国連UNHCR協会、一般財団法人 さっぽろ健康スポーツ財団、JICA北海道

【実施時期】6月中旬





札幌市民



開発途上国



研修員とお話できるふれあいコーナーは、子どもたちにも大人気！

札幌で世界について知ろう！ JICAのお祭り「世界ふれあいひろば」

広報・イベント

世界ふれあいひろば

JICA北海道（札幌）で実施する、異文化理解や国際協力にふれるお祭り。白石区をはじめ、札幌市近郊に暮らす多くの方々がJICA北海道の事業にふれ、北海道内の国際協力団体ともつながることができるイベントです。研修員との交流プログラムや世界の現状を学べる展示案内、館内を探検するウォークラリー、フェアトレード商品の販売コーナーなどもあります。

【主催】札幌市、公益財団法人 札幌国際プラザ、
一般財団法人 さっぽろ健康スポーツ財団、
JICA北海道

【実施時期】8月下旬



(上) ステージパフォーマンスでは、世界のいろいろなダンスや音楽と一緒に楽しめるプログラムがたくさん！

(下) ウォークラリー参加者はNGOブースを訪問。いろいろなNGOの取り組みを紹介してもらえたかな？



北海道の
市民



NGO等
国際協力
団体



民族衣装を着たJICAスタッフがブースでお出迎え

国際協力団体とともに 道内最大のイベント「国際協力フェスタ」

広報・イベント 国際協力フェスタ

国際協力フェスタは、北海道で国際協力に関連した活動を行なっているNGOなど約30団体が参加する、道内最大の国際協力イベントです。チャリティーバザーやステージプログラム、パネル展、活動紹介、ワークショップ、クイズラリーなどコンテンツ盛りだくさん。JICA北海道(札幌)も、JICA事業を紹介するブースやステージに参加しています。

- 【主催】北海道NGOネットワーク協議会
- 【共催】JICA北海道
- 【実施時期】12月中旬



JICAブースでは国際協力やSDGsについて考えるクイズを出題。正解者には世界各国の民芸品を贈呈。盛り上がりました！



フェアトレードコーナーでアクセサリを作ろう

フェアトレード商品を手にとることで 世界をより身近に

広報・イベント

国際フェスタinとかち

JICA北海道(帯広)では毎年2月に「十勝から、世界に羽ばたく人材を育てる。」をテーマとした国際協力・交流イベント「国際フェスタ in とかち」を開催しています。毎年恒例のフェアトレードコーナーでは、来場者がフェアトレード商品を手に取りながら、持続可能な消費と生産について、お買い物を楽しみながら学んで頂きます。

【主催】十勝インターナショナル協会

【共催】帯広市、JICA北海道(帯広)

【会場】森の交流館・十勝 及び JICA北海道(帯広)



(上) フェアトレードコーナーでお買い物

(下) 子どもたちに大人気のパステルアート

3 すべての人に健康と福祉を



10 人や国の不平等をなくそう



特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会



インドネシア



現地で開催した技術講習会の様子。受講した障がい者の皆さんも真剣です

インドネシア・バリ島で 現地の障がい者に車いすの修理を教える

草の根技術協力事業 車いす整備・修理技術の移転 in Bali

これまで約80か国に2,800台以上の車いすを届けてきた「飛んでけ！車いす」の会。これまでに培ってきた車いすの整備・修理技術を生かして、インドネシアのバリ島で技術講習会を開き、現地の障がい者の方々が自分たちの手で車いすを整備、修理できるようになることを目指しています。



(上) 手足に障がいがあってもバンク直しに挑戦

(下) 講習を修了した方には修了証書が手渡されました

【実施団体】 特定非営利活動法人「飛んでけ！車いす」の会

【実施期間】 2018年～2020年



モンゴルの農家のみなさんと滝川市のみなさんで

滝川発！寒冷地にあわせた栽培や加工の技術指導をモンゴルで

草の根技術協力事業 北海道滝川市発～地方農民の収入向上を目指したアグリビジネス振興プロジェクト

寒冷地であるモンゴルは、野菜の摂取量が不足しているにも関わらず、農作に適した期間が短く、野菜の増産が簡単ではありません。そこで滝川市は、北海道で行われている栽培手法を活かして、これまでモンゴルで栽培に2年かかっていた玉ねぎを1年で収穫できるようにしたり、野菜の栽培技術を指導したりするとともに、売れない野菜を加工品として販売できるよう、栽培技術や加工技術の普及を目指して活動しています。



(上) 現地で開催した講習会の様子



(下) 小さすぎるなどの理由で売れない人参を使って人参ジャムを作成しました

【実施団体】 一般社団法人 滝川国際交流協会

【実施期間】 2017年～2020年



プロジェクトで指導を受けた酪農家が育てている牛

ウガンダで安全な牛乳を量産！ 酪農学園大学による技術指導

草の根技術協力事業 ムバララ県安全な牛乳生産支援プロジェクト

ウガンダのムバララ県はウガンダの主要酪農地帯ではありますが、衛生技術等が未熟なため十分な量が取れず、外国から牛乳を輸入しています。そこで酪農学園大学は、安全な牛乳をたくさん生産できるよう、1) 衛生的な搾乳、2) 牛の栄養・繁殖管理、3) 子牛が死んでしまうダニで媒介される原虫病の防除という3つの活動の普及に取り組んでいます。

【実施団体】酪農学園大学

【実施期間】2017年～2019年



(上) プロジェクトで指導した方法で搾乳する酪農家

(下) 活動に調査結果を反映しながら進めます

6 安全な水とトイレを世界中に



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



札幌市水道局、
HIECC



モンゴル
(ウランバートル市)



ウランバートル市における水道システムの問題分析

都市化が進むウランバートル市に 安定した水供給のための技術教育を

草の根技術協力事業 UB市送配水機能改善協力事業

都市化が進むモンゴルのウランバートル(UB)市では、郊外の開発に伴う水道使用量の増加が予想されます。将来も水を安定して供給するため、札幌市水道局は送配水機能を改善するための計画づくりを担える技術を持った人材の育成に取り組みました。

【実施団体】 札幌市水道局、公益社団法人 北海道国際交流・協力総合センター (HIECC)

【実施期間】 2016年～2018年



(上) モンゴルで講義をしている様子



(下) モンゴル側(左側)との協議の様子



小学校で写真や歯の模型を見せながら説明している様子

正しい歯磨きで健康増進！ Bangladesh の子どもたちに教育

草の根技術協力事業

口腔衛生指導専門医による地域住民の健康増進事業

歯槽膿漏や虫歯が原因で血管系・関節疾患など全身疾患の発症率が増加し、その症状も悪化することがあると言われていますが、 Bangladesh のシレット州に暮らす多くの農民や子供たちは、低収入で教育も十分に受けられていないことから健康管理が十分にできていません。そこでNPO法人ジョロナは、現地の歯科医グループと連携し、正しい歯磨きの仕方や健康増進につながる行動の定着を目指した活動に取り組んでいます。

【実施団体】 特定非営利活動法人 ジョロナ

【実施期間】 2018年～2021年



(上) 自作の紙芝居を使った啓発活動の様子



(下) 模型を使って正しい歯の磨き方を教えています



日本人専門家による酪農技術指導

パラグアイの酪農振興のため 帯広畜産大学が技術レベル向上を支援

草の根技術協力事業 東部地域・酪農振興のための農業研修拠点の形成と人材育成支援

JICA北海道は2011年6月から帯広畜産大学との共同で、パラグアイの東部地域を対象に、畑作偏重からの脱却を目指し、酪農との複合経営への取り組みを支援しています。現在は農協と連携をすすめ、現地の酪農指導員の技術レベルの向上や養成体制の構築を目指した支援を行っています。

【実施団体】 帯広畜産大学

【実施期間】 2016年～2020年



(上) 日本人専門家による酪農技術指導

(下) 短期派遣専門家による酪農家への講習会



井戸カメラによる診断・改修後の井戸

ボリビア各都市でカメラを使って 井戸を長持ちさせる普及・実証活動を

中小企業・SDGsビジネス支援事業 効果的な診断・改修による井戸の長寿命化普及・実証事業

南米のボリビアでは貧困地域や地方において飲料水の供給率が低く、国家的な問題となっています。この問題の解決のため、日本政府は長年、水資源開発を中心とした技術協力を行ってきました。しかし、給水関連施設の維持管理が適切に行われていない地域もあり、維持管理を行う能力の強化が重要な課題です。この問題を解決するため、井戸内部を可視化できるボアホールカメラを使って井戸の診断や改修方法の選定を行い、既存井戸の長寿命化を行いました。

【実施団体】株式会社レアックス（札幌市）

【実施期間】2017年～2019年



(上) 井戸カメラによる診断・改修後の井戸

(下) 井戸管理関係者への井戸診断、改修方法検討に関するセミナー



キルギス運輸道路省の技術者が金網設置場所を視察

キルギスの道路の落石を防止！ 人と物の流通を安心・安全に

中小企業・SDGsビジネス支援事業 道路斜面防災に係る案件化調査

北海道には豊かな自然があり、道路への落石事故が多く発生する環境にあります。北海道には、これらの事故を低減させるため、金網製品により落石を防止する技術があります。この技術を利用し、中央アジアのキルギス共和国において、道路通行上の安全・安心を確保し、人的・物的損失、通行止めによる地域の孤立化や物資輸送の遅延を予防することを目的にしたODA案件化調査を実施しました。

【実施団体】サンゴ北海道株式会社（恵庭市）

【実施期間】2017年～2018年



(上) キルギス投資促進
進行での金網製
品説明



(下) キルギス運輸道
路省、非常事態
省向けセミナー



ナムカン発電所の既存の監視・制御システム調査

ラオスの水力発電所で 安全運用を図るシステムを導入

中小企業・SDGsビジネス支援事業 遠隔モニタリング技術を活用した水力発電所の運用・保守高度化に関する案件化調査

北海道には豊富な水資源を活用した水力発電所が多くあり、発電所の安定的な運用を行うためのシステムが使われています。水力発電所の建設が数多く計画されているラオスにおいて北海道の持つこの技術を活用し、異常兆候の早期発見、事故の未然防止、的確な補修計画を策定したり点検周期を最適化することなどにより、水力発電所の効率的な運用を図るための調査を行いました。

【実施団体】株式会社ハイテックシステム (恵庭市)

【実施期間】2017年～2018年



(上) ラオス電力・発電公社でシステムの説明



(下) ナムカン発電所のダム



泥炭地に監視システムを設置

インドネシアの多目的ダムで 災害対策や環境を守る監視システム導入

中小企業・SDGsビジネス支援事業 多目的ダム管理の効率化等にむけたリアルタイム監視システム (SESAME) 普及・実証事業

インドネシアにおける「多目的ダム管理効率化、効果的な災害対策」を長期的な目標として、リアルタイム監視システム (SESAMEシステム) によるチタムル川流域のフィールドデータをリアルタイムに測定しデータ収集の効率化を図りました。同時に、「気候変動対策にかかるモニタリング活動の促進」を長期的な目標として、気候変動にかかわる様々な野外観測の場でのデータ収集におけるSESAMEシステムの有効性を実証しました。

【実施団体】株式会社みどり工学研究所 (札幌市)

【実施期間】2015年～2017年



(上) インドネシア技術評価応用庁、ジャサティルタII公社の職員向け勉強会

(下) 水路への監視システム設置方法を指導



国道3号線の斜面の地質、強度調査

落石による交通遮断を回避、東ティモール民主共和国の交通を守る

中小企業・SDGsビジネス支援事業 道路斜面災害防除事業にかかる案件化調査

東ティモール民主共和国では、主要幹線国道で落石等による交通遮断が頻発しており、国内の南部地域経済開発の足かせになっています。この問題解決を図るため、落石災害対策製品、斜面安定化製品などを使用することにより、落石等を防ぐためのODA案件化調査を行いました。

【実施団体】株式会社ヤマコウ工業（北広島市）

【実施期間】2018年～2019年



(上) 国道3号線の斜面崩壊現場

(下) 同線道路崩壊現場



新浄化装置の水質検査

ベトナム・世界遺産ハロン湾の美しい環境を守るため、バイオトイレ導入と普及を

中小企業・SDGsビジネス支援事業 バイオトイレと新浄化装置を活用した環境改善技術の普及・実証事業

ベトナム・クワンニン省にあるハロン湾。ハロン湾は1994年世界遺産に登録されました。美しい海に浮かぶ島々を見るために、世界中から人々が訪れています。近年、水質の汚染が著しくなり、美しい景色への影響も懸念されています。この美しい環境を守るために、バイオトイレや新浄化装置を観光船、公共施設、一般家庭に導入し、その有効性を実証するための事業を実施しました。バイオトイレの^{ざんき}残渣は有機肥料として利活用できます。また、環境教育を通して、住民の水環境改善意識も向上させることが期待されています。

【実施団体】正和電工株式会社(旭川市)

【実施期間】2015年～2018年



(上) ハロン湾船着き場のバイオトイレ建屋



(下) クワンニン省人民委員会との協議



デモンストレーションの様子

作業効率を上げる収穫機に期待！ インドの農村地域での新たな取り組み

中小企業・SDGsビジネス支援事業 ジャガイモ収穫機普及に向けた普及・実証事業

インドの農村地域では、収穫期の労働力の確保や、手作業による作業効率の悪さが課題となっています。

東洋農機株式会社(帯広市)が実施した普及・実証事業では、インドでも有数のジャガイモ産地であるパンジャブ州への収穫機の導入について実証すると同時に、作業の機械化に適した畑作りの指導も行いました。

【実施団体】東洋農機株式会社(帯広市)

【実施期間】2014年～2018年



(上) 初めて見るジャガイモ収穫機に興味津々の周辺農家

(下) パンジャブ州の子ども達と

**ゴール1：貧困をなくそう**

P.53, 57

**ゴール2：飢餓をゼロに**

P.25, 28, 31, 32, 40, 48, 50, 53, 63, 64, 67, 74

**ゴール3：すべての人に健康と福祉を**

P.33, 45, 48, 49, 50, 52, 62, 66

**ゴール4：質の高い教育をみんなに**

P.26, 37, 44, 45, 49, 50, 51, 52, 54, 55, 56, 57

**ゴール5：ジェンダー平等を実現しよう**

P.58

**ゴール6：安全な水とトイレを世界中に**

P.41, 65, 68, 71, 73

**ゴール7：エネルギーをみんなにそしてクリーンに**

P.46, 70

**ゴール8：働きがいも経済成長も**

P.34, 36, 39, 53, 63

**ゴール9：産業と技術開発の基盤をつくろう**

P.27, 29, 46, 53, 65, 69, 72



ゴール10：人や国の不平等をなくそう

P.44, 55, 56, 58, 62, 66



ゴール11：住み続けられるまちづくりを

P.30, 35, 46



ゴール12：つくる責任 つかう責任

P.47, 58, 61, 63



ゴール13：気候変動に具体的な対策を

P.24, 38, 47, 71



ゴール14：海の豊かさを守ろう

P.47, 73



ゴール15：陸の豊かさも守ろう

P.23, 38, 42, 47



ゴール16：平和と公正をすべての人に

P.44, 58



ゴール17：パートナーシップで目標を達成しよう

P.55, 56



全 般

P.43, 59, 60

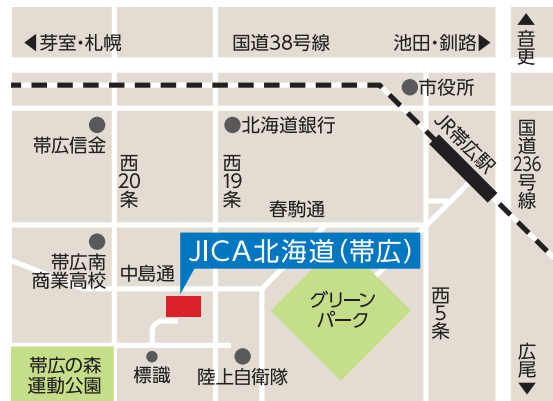


SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



JICA北海道(札幌)

〒003-0026 北海道札幌市白石区本通16丁目南4-25
TEL : 011-866-8333 (代表) FAX : 011-866-8382
<http://www.jica.go.jp/sapporo/>



JICA北海道(帯広)

〒080-2470 北海道帯広市西20条南6丁目1-2
TEL : 0155-35-1210 (代表) FAX : 0155-35-1250
<http://www.jica.go.jp/obihiro/>

独立行政法人 国際協力機構 北海道センター